



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第22号

発行日
平成17年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|-------------|----|-----------|
| P2 | 土石流災害支援活動 | P5 | ベニマンサク鑑賞会 |
| | PVの会旗制定 | P6 | JPR活動の支援 |
| P3 | 登山道の町石流失、埋没 | P7 | 私の趣味 西 喜三 |
| P4 | 公募観察会（歴史探訪） | | 編集後記 |
| | ハチクマの渡り観察 | | |



「ベニマンサク」

おおの自然観察センターベニマンサク湖
一帯に群生し、広島県天然記念物に指定
されています。ハート型の葉は見るからにや
わらかく、芽だしから秋の紅葉まで様々な
色合いをみせてくれます。

P5にベニマンサク観賞会（10/15）記事

「写真」 森川 範吾

環境省組織改変 平成17年10月

山陽四国地区自然保護事務所（岡山）
広島自然保護官事務所



中国四国地方環境事務所（岡山）
広島事務所

※高木自然保護官の所在場所は従来通り

台風 14 号

宮島に土石流災害
PVで復旧支援活動

9月6日に襲来した台風14号は各地で集中豪雨となり、宮島では大聖院ルートの登山道が3ヶ所崩落、

土石流となり滝町通りに流れ込み甚大なる被害を受けました。

PVの会ではいち早く復旧支援活動に立ち上がり、3日間延べ30人の参加者により民家に入り込んだ大量の土砂搬出作業など残暑厳しいなか大奮闘しました。

土石流災害復旧支援活動

*9月11日参加者 井上 小川 柴田 島
中道 平山 村上 柳瀬 (8名)

午前中は滝町、越智さん宅の土砂の搬出(前庭と家の中の土砂)、午後は中西町の坂谷さん宅で床下へドロの搬出



民家の土砂搬出作業

*9月15日 井上 中本 平山 前田(勲)
村上 森 柳瀬 横山 (8名)

午前、午後とも滝町の所さん宅地下(川からは1階)の物入れに入ったヘドロと土砂の搬出で宮島町女性会、町職員と一緒にりましたが11日より一段ときつい作業でした。

*9月17日 池下 井上 岩崎 小川 柴田
末原 竹内 坪井 中本 前田(正)
村上 山根 横路 (13名)

作業は民家床下めくり、土砂除去、たたみ等の廃棄ゴミ処理、道路に敷き並べてある土のう補修などなお10m以上流されながら白糸川に転落寸前だった二丁町石については、町



流されていた二丁町石

の許可を得て7名で安全な場所へ引き揚げました。

3日間、暑さと悪臭のなか参加の皆さん疲労困憊のようでしたが、被災者からは大変感謝され、後日、宮島町長からPVの会宛に感謝状が届いています。本当に御苦労さんでした。(井上 記)

PVの会旗制定

「みせん」6月号で会員から募集した会旗のデザインについては井上、坪井会員から応募があり、幹事会で両人の作品をベースに専門家の意見も参考にして次図のような会旗を制定しました。

井上、坪井会員には記念品を進呈します。



このデザインで900×600mmの旗に調製しこれからの屋外活動などで利用します。

◇ホームページ開設◇

宮島地区PVの会の活動状況、会報「みせん」などが環境省のHPに掲載されていますので、開いてみてください。

<http://chushikoku.env.go.jp/>

台風14号の土石流

貴重な町石・石仏が流失、埋没 岩崎 義一

台風14号が弥山を襲った直後、9月10日大聖院から崩れた登山道を辿り、弥山参詣道と町石の被害状況を調べた。

まずは大聖院にお見舞いに何う、既に勅願堂裏手の土砂を取り除く作業にボランティアが汗を流している。境内は白糸川からの巨石と土砂・木々が満福堂裏まで被いつくしている。登山道は白糸の滝まで320mにわたり完全に失われている。大聖院の赤い橋も流され、仁王門階段横の起点道標は無事なものの明治の一丁・二丁と元文一丁及び江戸初期の町石石仏を含め全く跡形もない。



駒ヶ林下からの土石流

不動堂、滝宮神社は完全に崩壊、高倉上皇の御幸岩から見る白糸の滝は千二百年前に戻ったのか滝壺下半分の岩石が押しだされたため高

さが倍以上にもなり雄大な姿に、様変わりしている。

不思議なことにこの分岐（三丁）右への登り石段から里見茶屋跡のあずまや、中堂跡、賽の河原はほとんど被害がなく、最古の慶長八丁町石も含め十一丁まで残っている。

安心したのもつかの間、突然登山道石段が崖下に崩れ落ちている。ここからは150mが再び失われている。まさ土の斜面をよじ登ると、右上手に石段が見え再び登山道に、太夫戻し岩までは（14丁手前）辿ることができた。

幕岩は土砂が落ち以前より大きく見える。しかし今度は駒ヶ林の下から新しい谷が出現したように剥き出しの土石流が行く手を阻む。

水が川のように流れ土砂はぬかるんで歩きづらい。海上から見えるよりも右手西、駒ヶ林の下を起点として（標高400m辺りか）土石流は発生している。突端には4つの巨石、荒々しく森がえぐられている。

森の中を藪こぎで駒ヶ林頂上への分岐へ出て仁王門に至る。ここは平静そのもの。今度は大聖院に下る石段を下りる。遊女石畳は上2/3は残ったものの万

代橋・白髭明神のところで駒ヶ林からの土石流に石畳道は押し流され崩れ去っていた。

十四丁まで80m崩落、町石は明治十二、

十三、十四丁、元文十二丁の四基が谷底へ落ちたのか、麓と合わせると合計8基を失ったことになる。再び登り仁王門から山頂へ、帰りは紅葉谷を下る。此方は災害の痕跡すら感じない、ロープウェイからの観光客が普段と変わりなくやって来るのに出会う。

翌日は再び大聖院から登り大元道へ下る。大元道も奥の院も無事であった。

この日の収穫は明治二丁の町石の発見であった。元の位置から下へ10数m流され、かろうじて白糸川に落ちる寸前、木に阻まれ止まっていた。この土砂の下には、まだ多くの石仏や町石が埋まっていることを思うと胸が痛む。

歴史的には慶長も元文も明治の時期も大災害が起こるたびに、お堂が再建され参道が修復され、また惨事が起こらぬことを願って町石がその都度、祈りを込めて建てられた。今回も失われた参道と町石は「平成の町石道」として甦ることを願うこと切。



途切れた石段、幕岩手前

公募観察会

宮島の歴史と文化探訪

日時 10月16日(日) 9:00~15:00

参加者 足立 井上 岩崎 近藤 佐藤
末原 坪井 中道 丸平 村上
森川 横路 公募参加者 10名

土石流災害後の観察会で大聖院～弥山コース変更のためか公募参加者 10名とやや少なめですが、中道さんから真新しいガイドブックを2冊も受け取り、きれいな写真入りの内容に大満足、好天の中、出発しました。

いつものながらの中道さんのユニークな解説は、合戦だの誓真さんだの時代を飛び越え、海岸線拡大の太古から、つい先日仕入れたという和尚さんの話まで、実に多彩な内容に感銘を受けました。

はてまたPV会員からの植物解説と得意分野がプラスされ、さらには女性参加者が多かったせいか近代「留守」雑学の勝手講義まで飛び出し縦に横に広がった歴史探訪の一日でした。(坪井 記)



誓真大徳碑前での公募参加者

ハチクマはどこへ・・・

弥山で渡りの観察会

日時 9月23日(祝) 10:00 弥山頂上集合

参加者 小方(嗣) 近藤 前田(勲) 舛田
村上 矢吹 六重部

参加会員7名、徒歩とロープウェイに分か

れて弥山山頂を目指します。私はロープウェイ。谷間のあちこちに咲く「リンボク」の花に見とれながら、快適な空中散歩です。

10時過ぎ、照りつける太陽はまだ夏、汗びっしょりになって山頂到着。ほどなく徒歩組と合流。ところで「ハチクマ」って？

タカ目タカ科「トビ」より少し小さい全長60cm 前後、翼開長 121~134cm

北の繁殖地と南の非繁殖地を往復しているワシタカの代表です。

春と秋、九州以北に渡来し繁殖、九州北部から東シナ海を横断するルートをとると推測



弥山頂上での参加者

されています。この地区では9月23日頃、弥山、極楽寺山、大茶臼山などで観察されています。

まぶしい太陽のもと、空を仰ぎ、待っていると、リーダーの近藤さんに「高いところで3~4羽ゆっくり舞っているよ」と言われ、あわてて双眼鏡を覗きました。時々「ミサゴ」を「ハチクマ」と間違えたりしながら12時半までに15~16羽確認。上昇気流をつかみ優雅に飛ぶ姿に憧れますが、これからの長旅を思うと、無事を祈らずにはおられません。

帰り道、紅葉谷はほんのり紅葉を始めていました。(舛田 記)

「みせん」次号発行予定

発行日 平成18年3月1日

原稿締切 1月末日

おおの自然観察の森

ベニマンサク 観賞会

日時 10月15日(土) 10:00~15:00

参加者 小方(嗣) 近藤 新川 前田(勲)
村上 森川 矢吹 六重部

夜半から降り出した雨に打たれ、しっとりと佇むベニマンサクを観賞しようとセンターに集合。午前中は室内で森川会員から「ベニマンサクとオナガコバチの共生」の話を聞く。この時期背中合わせに咲いている花の傍らで昨年の実が熟して2~3mはじけ飛び、真冬の凍てつく寒さを経て、はじめて発芽のときを迎えるとのこと。森川さんが採集した種を水に入れ、沈んだ種を蒔くようにとの指示を受け、100粒ほど分けて貰う。

昼食後外に出て実際に観賞する。日当たりの良いところは既に濃紅色に色付き、ハート状の花が咲いて陽に輝いている様は本当に美しい。ヘーゼルナッツ、ハシバミ、ツノハシバミ等を採集したりミヤジマママコナ、ホザキノミミカキグサなど五感をフル動員して観察を楽しみました。

個人的には昔、何の知識もなく出会い感動したベニマンサクに再びまみえることができ、充実した一日でした。森川さんには、いろいろお心遣いを頂き有難うございました。

(近藤 記)

JICA研修生と交流

日時 10月28日(金) 14:00~16:00

国際協力機構(JICA)の研修生、12カ国



JICA 研修生一行

14人が今年も宮島で「観光開発と環境保全」の研修テーマを持ってフィールドワークを実施しましたが、PVの会でも宮島資料館から大聖院境内までの観察コースを使って、PVの活動状況や瀬戸内海国立公園の景観の特徴等について紹介し、ヒアリングに応じました。

研修生はいずれも国の将来を担う若き行政官であり、帰国後の活躍を期待しています。

(村上 記)

名板取り付け作業

日時 10月1日(土) 9:00~12:00

参加者 新川 末原 坪井 古川 前田(勲)
舩田 村上 森 横路 六重部
高木保護官

一昨年取り付けた、栈橋から大元までのウグイス道とアセビ歩道の樹木名板点検を行いました。昨年及び今年の台風で樹木が倒れたり、枯れたりして取り付け本数406本のうち16本がなくなっていました。また名板が無くなった樹木には補充しました。

今後も定期的に保全観察を行っていきたいと思います。(末原 記)

紅葉谷公園の清掃、補修

日時 10月29日(土) 9:00~14:00

参加者 足立 平山 丸平 前田(勲) 柳瀬

天気予報の降水確立50%ということで中止となりましたが、実際には雨は降らず、自主参加の5人で紅葉谷公園の特に側溝土砂除去作業を実施しました。



側溝の土砂除去作業

宮島のシカを守るには・・

J P R 包ヶ浦で体験学習

今年の子どもパークレンジャー（J P R）の目的は体験学習を通して自然や環境を保護するために必要な行動を考え実践することでした。



全部で3回行われ、第1回は前号で紹介されたとおりです。第2回は子どもたちが宮島のシカの生態を学び、第3回はシカを守るためにどうすればよいか考え、チラシを作り観光客に伝えるという内容で、P Vは観光客の動向などについて子どもたちに情報提供することになりました。

そこで宮島町観光課や広大植物実験所で取材するなど多くの方の協力を頂き、紙芝居「シカを救うのは私たち」を作り直し次のとおり参加しました。

第2回 J P R 9月3、4日

参加者 小川 佐藤 野呂田 平山 横路
3日はシカの生態学習、講師は宮島フィールドミュージアムの方々。
4日の午後、紙芝居の上演とコバンモチに保護網を取り付けたことなどシカの食害について説明しました。



紙芝居の熱演

第3回 J P R 10月15、16日

参加者 小川 末原 野呂田 横路
15日は講師の指導のもとチラシ作りのポイントを勉強し、チラシ作成、シカの写真撮影

を手助けしました。

翌日は宮島口桟橋前に移動し、子どもたちのチラシ配りを見守りました。

子どもたちは6班に分かれ、各班1名のカウンセラー（大学生ボランティア）と共に延べ6日間を過ごしました。班活動は様々だったようですが、どの子も学習内容をよく理解しており、チラシ作りではそれぞれユニークなチラシが完成しました。（小川 記）

◇子どもたちの作ったコピー◇

- 与えることが力を奪う
本当に僕たちのこと、わかりますか？
- しっかり考えよう シカが今、危ない
- シカはゴミ箱じゃない
シカの胃の中はゴミでいっぱい
- シカしか、わからん悩みがある
胃のなかにゴミがたまって大変だ！
- シカが大ピンチ
シカの胃の中ゴミしかない
- シカがもしかしたら・・自然を守る僕たちの団体、その名はパークレンジャー

自然解説指導者研修に参加して

野呂田 恵子

9月20~22日の3日間、広島県北、帝釈峡休暇村で行われた指導者研修・入門コースに参加しました。

今回の参加者は12人と少なかったせいか、全員を2グループに分け、参加者が主体となって活動する「自然解説プログラム」を各自一つずつ準備、計画、実施しました。時間は一人15分以内で①はっぱジャンケン②くり返し言葉をさがせ③同じものをみつけよう④色さがし⑤森のあいいうえお⑥漢字って感じ をそれぞれ実施し相互評価しました。

そのあとプログラムを練り直して作成し、全員のプログラムシートをコピーして配布して貰いました。

私には少々きつい研修でしたが、ふり返りと分かちあいの大切さを学び、中身の濃い実践的な内容で、今後のP V活動に大いに役立つものと思っています。

私の趣味

幽谷美人との出会い

西 喜三

霜月に入り木の葉が美しく色づくようになると、私の趣味「寒蘭」の季節が訪れます。

「蘭 幽林に在りて香り」「桜 雪裡に咲いて馨る」「松 天に到って屈せず」「蘭 人なくして亦香る」 安岡正篤先生のお言葉で、私自身、自然と草木を愛する生活の中で、この言葉に深く感銘し現在まで、私自身の生き方の信条としています。

「寒蘭との出会いは！」

思えば戦後間もない頃、とある喫茶店で初めて目にした鮮やかに咲いた一輪の「カトレア」に愕然とし心を引かれ・・・以後「バンダ」「デンドロ」「胡蝶蘭」など洋ランの明るさを求め、長い年月、夢中になって収集するなか・・・ある日、楚々として咲く蘭の草かごを背負った柔和な老人との出会いから寒蘭のとりこになりました。

恐らく中国数千年もの歳月の流れの中、美しい自然の息ぶきに生まれながら、脈々として現代に受け継がれてきた、寒蘭の佇まい。深山幽谷にひっそりと咲き、香りを漂わし、その心は衆俗に安んずることなく、常に自身



11/12~24 広島市植物公園での「寒蘭展」に出品したもの

を磨いて、端正な美しさ、犯しがたい気品、馥郁とした香り、これを今の世の中での生き様に置き換えると自らが選んだ道、人知れずとも黙々として自己研鑽を積み、その目的とする人に対し心から

愛を尽くす・・・まさに深山幽谷に薫る蘭の姿であるといわれています。

一つの蕾に一つの花、一本の細く通った茎を通して「気」「流水」「風」といった、一つの動きを持ち新鮮な時代の流れに沿った感覚は、情趣に富んだ、まさに幽玄の世界からの贈り物だと感銘しているところです。

深山幽谷をさまよううちに、ふと芳香に導かれ、この花との出会いがある。光を誘い風にそよぐ佇まい。古き時代の残した静かな優雅な美しさ。平成の今も優しく語りかけられます。

◇ 編集後記 ◇

▼昨年の台風 18 号は猛烈な風、今年の 14 号は集中豪雨、毎年のように宮島に被害をもたらす台風、後始末のボランティア活動をするたびに自然の脅威にたいする、人間の力の無力さを思い知らされます。しかも災害規模が益々大きくなっているのに、手の打ちようがないというのも腹立たしい▼高木保護官のご尽力で宮島 PV の HP が開設されました。これで活動状況が広く公開されることになり、PV 活動に対する理解が深まるものと期待しています。 (足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 2 号館 6 階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505) 廿日市市宮島町 1862-18

(宮島栈橋 2 F)